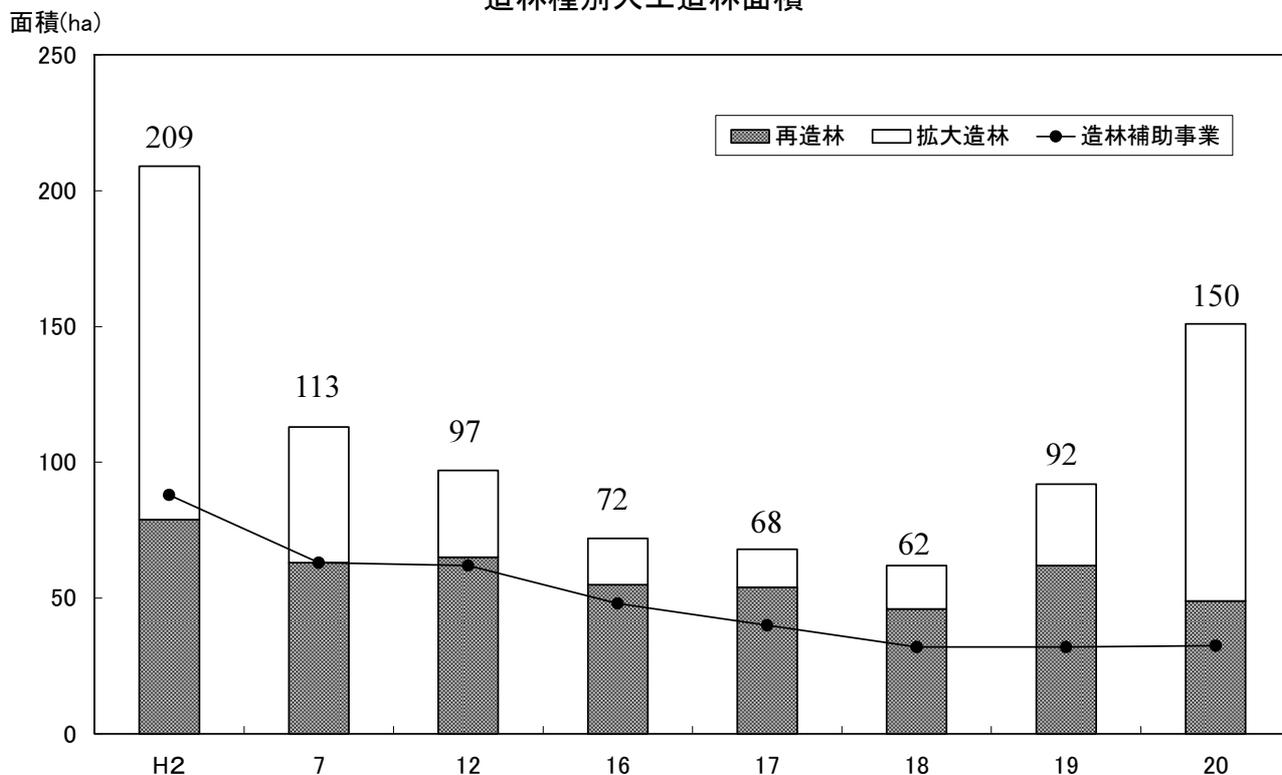


2. 森林の整備

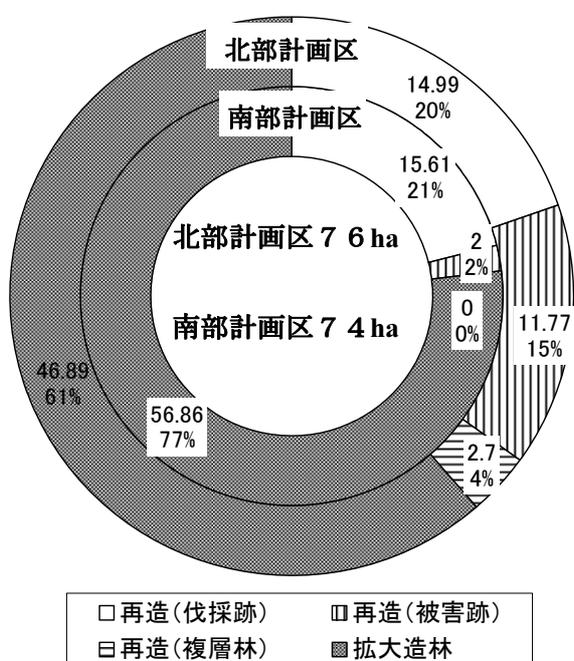
(1) 人工造林

—造林面積が増加—

造林種別人工造林面積



地域別人工造林面積



本県の人工造林面積は近年100ha未満で推移してきたが平成20年度は、林地開発跡地への植栽89haを合わせて151haとなった。

この内、補助造林面積は32haであり、前年度、前々年度と変わらなかった。

その結果、人工造林面積に占める割合は、前年度の35%から21%へ下がっている。

造林種別内訳は、再造林が前年度より13ha減少して49ha、拡大造林が72ha増加して102haとなっている。

20年度実績を地域森林計画区別に見ると、北部計画区が前年度より2ha増加して76haとなり、その内訳は、林地開発跡地への植栽が37haと過半を占めた。

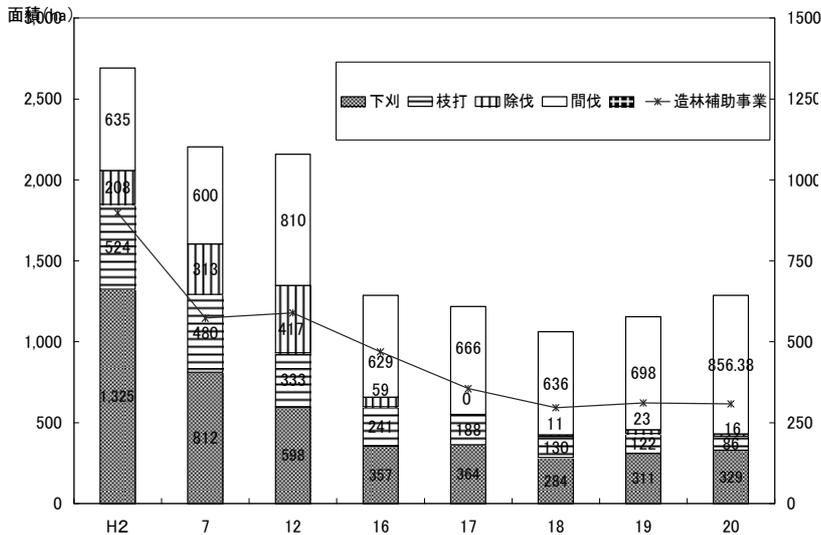
一方、南部計画区は前年度より54ha増加して74haとなり、内訳としては、林地開発跡地への植栽が52haと人工造林面積に占める割合の70%を占めた。

また、造林樹種別の面積構成は、スギが45% (67ha)、ヒノキ15% (22ha)、マツ6% (8ha)、広葉樹35% (52ha) となり、前年度に比べスギ、広葉樹の割合が増加し、ヒノキ、マツの割合が減少した。

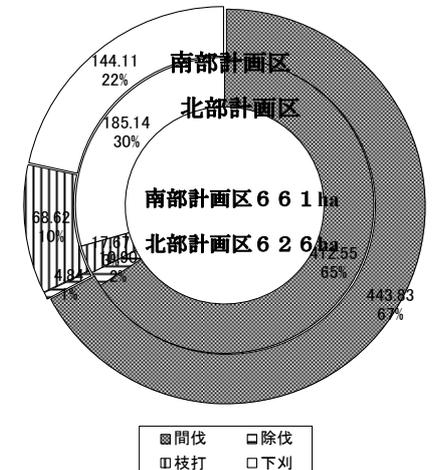
(2) 間伐・保育

—間伐・保育実施面積が減少—

間伐・保育面積の推移

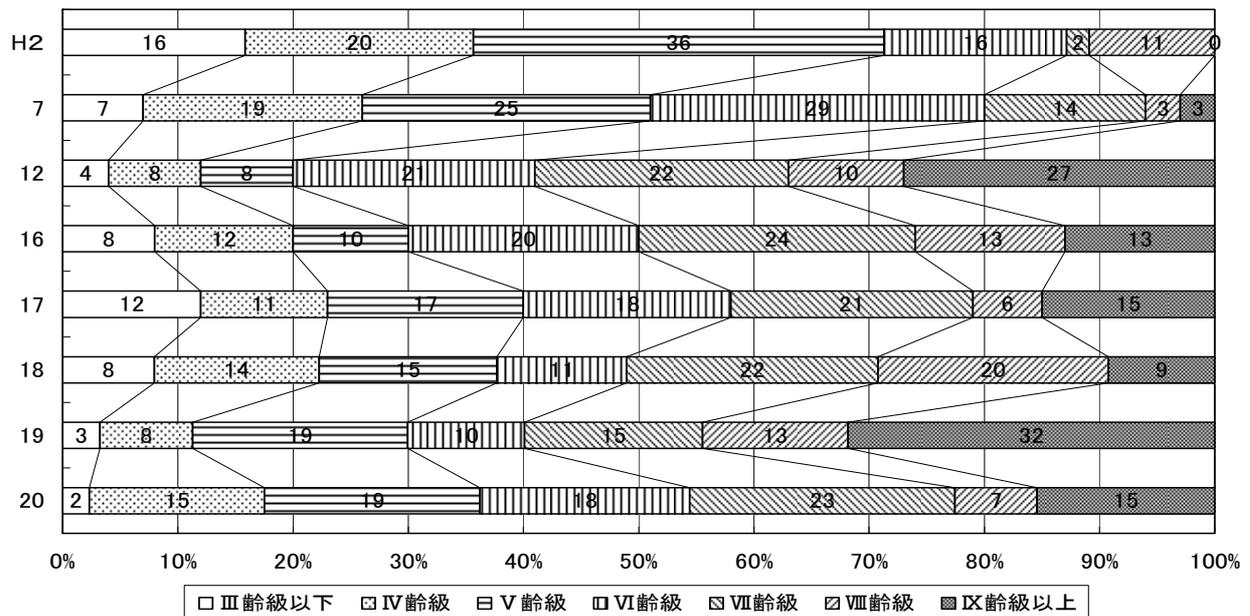


地域別間伐・保育面積



間伐の齢級構成の推移

単位: %



本県の間伐及び保育の実施面積は、近年、2, 100ha～2, 200ha程度で推移していたが、平成14年度以降減少が続き、20年度は1, 288haと前年度より135ha増加したものの1, 000ha強の水準に留まっている。

種類別には、除・間伐が昨年度より151ha増加したのに対して、枝打ちが36ha減少して86haとなり、平成7年度と比べ1/5程度となった。

20年度の地域別傾向としては、南部計画区661ha、北部計画区626haと拮抗した状態となっている。

種類別の内訳としては、北部計画区が下刈30%、間伐57%に対して、南部計画区では下刈22%、間伐66%となっている。

間伐実施面積構成を齢級別にみると、19年度はⅦ齢級以下の割合が55%であったが、20年度はⅢ齢級以下及びⅦ齢級以上を除くⅣ～Ⅶ齢級が増加し、Ⅶ齢級以下の割合が78%となっている。